

## § 教育目的と3つの方針

各学部・学科の「入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）」「学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）」「教育課程編成方針（カリキュラム・ポリシー）」と、全学共通教育の「カリキュラム編成方針（カリキュラム・ポリシー）」を示します。

### 経営情報学部

#### **経営情報学科**

##### **アドミッション・ポリシー**

#### 1 基本理念

企業や行政などの情報化や知識産業化に必要な情報学について、基礎から応用まで幅広い視点から学際的に分析し、また学問的に発展させることにより、豊かなデジタル社会を構築することを目的としています。

#### 2 人材育成目標

- (1) 企業や社会で、情報システムの企画・設計開発・運用管理の面において活躍したいと考える人材（情報化推進者をめざす人材）
- (2) 情報産業界において、それぞれ固有な問題を解決できる、情報システムを開発したいと考える人材（情報処理技術者をめざす人材）
- (3) 環境や社会に情報を活用することにより、エコ社会の実現に向け、環境に関する種々の問題を解決したいと考える人材（エコ社会の実現に興味がある人材）
- (4) 知的創造に関心を持ち、新しい産業やベンチャーの創出を推進したいと考える人材（創造力のある人材）

#### 3 求める学生像

- (1) 高等学校で数学、英語、国語、理科、社会に関して十分な基礎学力をもつ人（特に数学が好きな人）
- (2) コンピュータの仕組みや情報セキュリティ、情報ネットワークなどの理解に意欲や関心を持つ人（情報学に興味を持つ人）
- (3) 基本情報技術者などの資格を取得し、社会で活躍したいと考えている人
- (4) 情報の専門知識とスキルを身に付け、それを活かした社会・地域への貢献や活動などに関心のある人
- (5) 情報学の専門知識とスキルを身に付け、それを活かした職業に就きたいと思っている人

#### 4 入学者選抜の基本方針

一般選抜（前期日程、後期日程）のほか、推薦入試（県内高等学校等推薦、県内専門高等学校等推薦、全国高等学校等推薦）、社会人特別選抜、外国人留学生特別選抜を実施し、求める学生像に従った人材を受け入れることをめざしています。

##### **[一般選抜（前期）]**

基礎学力の把握のため、大学入試センター試験（5教科6科目（又は7科目））及び個別学力検査（数学、外国語）により評価します。

##### **[一般選抜（後期）]**

基礎学力の把握のため、大学入試センター試験（5教科6科目（又は7科目））及び個別学力検査（数学）により評価します。特に、数学の得意な学生を選抜したいため、個別学力検査の配点を高くしています。

##### **[推薦入試]**

書類審査、小論文及び面接の結果を総合して選抜します。小論文では、課題に対する理解力、論理的思考力及び文章表現力などを点数化し総合的に評価します。また、面接では、志望動機・意欲、論理的思考力、情報についての関心度などを点数化して評価します。

##### **[社会人特別選抜]**

書類審査、小論文及び面接の結果を総合して選抜します。小論文では、課題に対する理解力、論理的思考力及び文章表現力などを点数化し総合的に評価します。また、面接では、志望動機・意欲、情報についての関心度などを点数化して評価します。

##### **[外国人留学生特別選抜]**

日本留学試験の日本語及び数学の結果、また、TOEFL又はTOEICの結果並びに本学で実施する面接を総合して選考します。面接では志望動機、学習意欲、情報についての関心度などを点数化して評価します。面接は、経営情報学科で学びたいという志望動機・意欲、情報についての関心度などについて質問し、これらに対する応答の能力や内容などを総合的に判断し、点数化して評価します。

#### **経営学科・経営情報学科**

##### **ディプロマ・ポリシー**

#### 1 教育目的

企業や行政、NPOなどの組織が直面する現実の諸課題をその本質までさかのぼって、経営学と情報学の双方の視点から学際的に分析し、学問的に発展させ、その成果を社会に活かすことのできる人材を育成します。

#### 2 学修成果

「学士」を授与される学生は、以下のような知識や能力を有します。

##### **[経営学科]**

- ・ 組織とそれを取り巻く環境との相互依存関係の本質を理解できるような経営学に関する基礎知識

- ・ 経営に関する問題を把握し、解決するための戦略的意思決定を行うことができる思考力と判断力
- ・ 組織の制度設計に必要な基礎知識
- ・ 組織の情報化に対応するために必要な情報処理に関する基本的素養
- ・ 経営に関する自分自身の考えを他の人々にもうまく伝えることができる表現力

### 【経営情報学科】

- ・ 組織（企業、自治体、各種団体など）の経営戦略に基づき、情報化企画・設計・システム運営ができる情報化推進者としての能力
- ・ 情報処理産業界において、地域や組織ユーザなどの経営体の要件を理解し、情報処理システムの開発ができる情報処理技術者としての能力

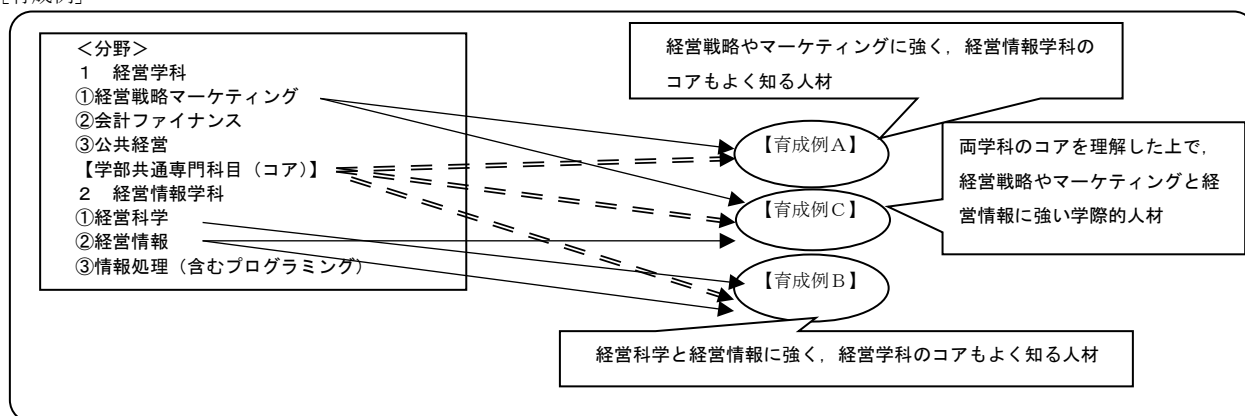
## 3 学修環境

経営情報学部では上記のような学修成果を生み出すために、以下のような学修環境を提供します。

(1) 経営学・情報学をベースに2つ以上の分野に強い人材育成が可能な科目配置をおこないます。たとえば、以下のような育成例があります。

- ア 経営戦略やマーケティングに強く、経営情報学科のコア（情報処理や経営科学など）を学ぶ科目配置【育成例A】
- イ 経営科学と経営情報に強く、経営学科のコア（経営戦略やマーケティングなど）を学ぶ科目配置【育成例B】
- ウ 両学科のコアを理解した上で、経営戦略やマーケティングと経営情報を学際的に学ぶ科目配置【育成例C】

[育成例]



(2) 広範囲な組織形態を対象にした教育

ア 経営学・情報学をベースに、企業組織のみにとらわれず、自治体やNPOを含む各種団体までの広範囲な組織形態を視野に、教育を進めます。

(3) 少人数教育を重視した教育

ア ゼミナールや演習を重視します。3年次、4年次に「専門演習」を2年間履修して卒業論文（必修）を作成します。

イ 理論の講義に止まらず少人数による演習・実験という科目を通じて、マス教育では限界のある、内容の深い理解、体験、スキル獲得を行います。

ウ そのために、学部としてのコア科目やスキル育成のための入門的な科目（簿記入門、情報処理基礎など）を1年次に履修させ、早くからスキル育成を開始するとともに、学部としてのコア科目に早くからなじめるようにします。

(4) 企業実習などの外部組織とのコンタクト重視

ア 企業や組織の第一線での活動に接触する機会を拡大します。企業や組織の活動現場を体験することにより、マネジメントセンスが磨かれるとともに、外を向いた実践志向のマインドが高まります。また、有能な実務家とのコンタクトにより、最新の情報化の理解や向学の動機付けを図ります。

## カリキュラム・ポリシー

### 1 経営情報学部の人材育成目標

- (1) 経営戦略マーケティング、会計ファイナンス、公共経営の3つの専門分野のうち、2つ以上の専門分野に強く、また多様な組織活動の担い手となることができる人材の育成を目指します（経営学科）。
- (2) 情報システムの企画・設計開発・運用管理の能力を身に付け、企業や社会の情報化に寄与できる「情報化推進者」、及び情報産業界において情報システムの開発を行う「情報処理技術者」の育成を目指します（経営情報学科）。

### 2 専門教育課程の編成と特色

(1) セメスター制とGPA制度の導入

ア セメスター制を導入し、1年を前期、後期に分け、半期で完結する授業を行います。

イ これにより学生は、半期ごとに時間割を見直すことが可能となり、受講の選択の幅が広がることや、さらに意欲的な学修機会（留学や研修など）の組み込みが可能となります。

ウ GPA制度を導入して学生指導を適切に実施します。

(2) 学部共通科目の設定・充実

ア 各学科の分野グループごとに、コアとなる科目を「学部共通専門科目」として設定します。学部共通専門科目は各学科に共通の専門科目であり、各専門分野の入門、概論を配置します。

イ 具体的には、経営関連のコア科目として経営学概論、簿記入門など、経営情報関連のコア科目として情報学入門、経営統計学入門などがあります。

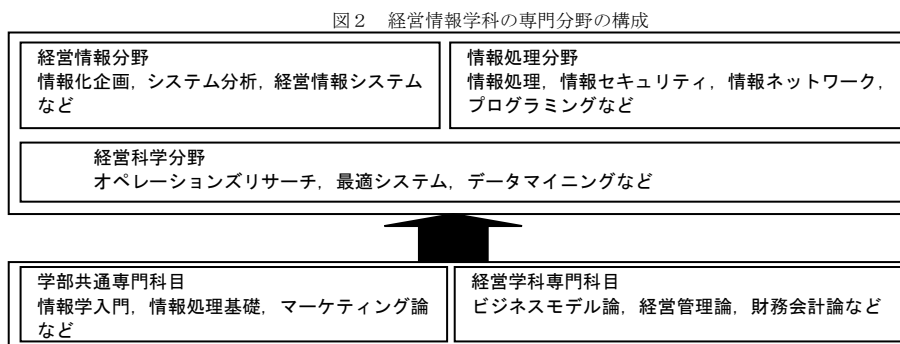
(3) コア科目、入門的科目の早期履修

ア 学部共通のコア科目やスキル育成の入門的な科目などの学部共通専門科目は1年次から履修させ、早い段階からスキル育成を開始するとともに、より専門的な知識を修得できるようにします。

- (4) 履修モデルの具体化  
 ア 両学科ともに、育成目標を目指した履修モデルを設けます。
- (5) スキル向上のための科目の充実  
 ア 学生のスキルを向上させ、実践力を身に付けさせるために、1年次の段階から学部共通専門科目として簿記、情報処理基礎などを配置します。  
 イ さらに学科専門科目についても、経営学科では、ビジネスプラン、マーケティング、会計、ファイナンスなどのスキル系科目を充実させます。  
 ウ 経営情報学科においては、理論—演習・実験という科目を通じて、内容の理解、体験、スキル獲得を行い、より高い技術を確実に身に付けさせます。
- (6) 3年次、4年次に「専門演習」を2年間履修して卒業論文（必修）を作成します。

### 3 経営情報学科の専門教育課程の編成

- (1) 学部共通専門科目を学んだ上で、経営科学分野、経営情報分野、情報処理分野の専門知識とスキルを身に付けた学生を育成します（図2）。



3つの専門分野の内容は、次のとおりです。

ア 経営科学分野

企業活動や情報システムの運用に関し、データ解析により新たな知見の発掘や業務の最適化を行うために必要な理論や技法を修得します。

イ 経営情報分野

企業や社会の情報化を進める上で必要な情報化企画、費用対効果評価、業務分析、情報システムの設計手順やその構築法などを修得します。

ウ 情報処理分野

情報システムを構成するために必要なコンピュータの仕組み、情報処理、情報セキュリティ、情報ネットワーク、プログラミング技法を修得します。

- (2) 経営科学分野、経営情報分野、情報処理分野の3つの授業分野に区分しますが、「情報化推進者」の育成と「情報処理技術者」の育成を目指した履修モデルを作成し、修得科目を通じて、育成目標を具体化します。